

会議録

会議の名称	令和5年度第1回西東京市行財政改革推進委員会
開催日時	令和5年5月15日（月）午後2時から午後3時15分まで
開催場所等	西東京市役所田無庁舎3階庁議室 及びWEB会議
出席者	委員：横道清孝委員長 原田久委員 鈴木文彦委員 伊藤俊介委員 池添弘邦委員 岸本恒久委員 佐藤泰治委員 鈴木研太委員 事務局：柴原企画部長 樽見企画部主幹（企画政策課） 前川企画政策課主査 利根川企画政策課主任
議題等	1 令和5年度行財政改革推進委員会のスケジュールについて 2 第5次行財政改革大綱について 3 その他
会議資料の名称	資料1 令和5年度行財政改革推進委員会関連スケジュール 資料2 第5次行財政改革大綱（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会 会長より開会の挨拶</p> <p>○事務局：会議の進行の説明</p> <p>○横道委員長：傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認める。</p> <p><u>議題1 令和5年度行財政改革推進委員会のスケジュールについて</u></p> <p>○事務局：《資料1に沿って説明》</p> <p>○横道委員長： 委員の皆様から意見等はあるか。</p> <p>○横道委員長： 特になければ次の議題に進む。</p>	

議題2 第5次行財政改革大綱について

○事務局：《資料2に沿って説明》

○横道委員長：
委員の皆様から意見等はあるか。

○岸本委員：
これまでの行財政改革大綱と違う切り口での構成であり、評価できる。各基本方針の指標を数値として推移を測ることは良い。

○池添委員：
基本方針Ⅰ、Ⅱについて、推進項目と指標が関連しておらず、市民にとってわかりやすくする工夫をお願いしたい。巻末の「評価指標一覧」には、指標の考え方が記載されているので、それぞれの基本方針のページに、この「評価指標一覧」の参照を誘導するような記載をするのも良いと思う。
基本方針Ⅱの指標の考え方のうち、「職場環境の健全性を判断」については、目標を達成できなかった場合に職場環境が健全ではないと捉えられかねないので、表現を変更したほうが良い。

○伊藤委員：
基本方針Ⅰについて、ファシリティマネジメントの推進の理由として、更新が必要な施設の例示が教育施設だけである。確かに教育施設は床面積に占める割合が大きいが、今後の公共施設を考えたときに、複合化や共用化など多様な手法の可能性があることから、学校施設だけに特定した記述としないほうが良いのではないか。推進項目の記述についても、単なる施設の更新だけでなく、複合化や共用化などのニュアンスがあっても良い。

また、「経常的な経費の抑制」について、ゼロカーボンシティの実現は上位の概念であることから、経費抑制の手段として位置づけているところに疑問がある。

基本方針Ⅲの「行政サービスのデジタル化の推進」では、自宅から手続きができることが強調されているが、行政手続きの手順やフローの見直しにまで言及しても良いのではないか。

基本方針Ⅰの方針名の「みらい」をひらがなにしている理由は何か。

○事務局：
「みらい」をひらがなにしている理由は、現在策定中の次期総合計画に掲げる基本理念から引用しているためである。

○鈴木（研）委員：
基本方針Ⅱの評価指標について、CS（顧客満足度）の観点から設定できないか。職員が仕事をする中で、職員自身が職場環境についてどう思っているか、アンケート結果などの満足度を指標に加えられないか。

また、基本方針Ⅲの評価指標についても同様に、市民が、提供されているサービスにどう感じているか、その満足度を指標に設定できないか。

○横道委員長：

基本方針Ⅰの評価指標は確立されているが、基本方針Ⅱ、Ⅲはその設定が難しいと感じている。今後どのように検討していくのか。

○事務局：

基本方針Ⅱについては、先ほど御意見があったような職員向けのアンケートも検討に加えている。基本方針Ⅲについては、市民意見の吸い上げ方についても検討したい。

○佐藤委員：

第4次行財政改革大綱の前期には、基礎的財政収支があったかと思うが、これがなくなった理由は何か。

財政白書にも、「右肩上がりの改善を迫ること以上に、新たな行政需要にも対応できる弾力的な財政運営が可能な水準を維持することが重要と考えています。」と記載があり、レジリエントな財政運営が重要となってくると考えられるが、評価指標については、今後どのような数値設定をしていくのか。

また、令和3年度決算ではコロナなどの特殊要因によって良い数字が出ており、次期大綱の現状値に採用するには適さない数字もあるかと思う。見せ方を工夫する必要があるのではないか。

基本方針Ⅱでは、推進項目の3つ目の観点の指標が設定されていない。エンゲージメントを高めることで、市民に寄り添ったサービスが提供出来るようになるといったアウトプットを期待したときに、今の評価指標は内部向きのような印象を感じる。ルーティン業務や簡易な事務処理と、高次な事務をカテゴリ分けし、業務改善をすることで、職員が行う業務を高次なものへとシフトさせるような考えを指標に取り入れられないか。

○事務局：

基礎的財政収支は単年度ごとの財政の健全性を示す指標であるが、学校用地を取得した平成27年度以外は毎年度黒字を達成しているため、後期基本方針を策定するタイミングで外した経緯がある。

評価指標の現状値の設定や10年度の目標値については、今後財政課等と調整をしていく。

御指摘のような、より高次な事務に人員を配置する考えはその通りと考えている。そのほかに、AIやRPAでの人件費や労働時間の縮減についても指標とできるのではないかと考えているが、取組の結果がどれくらい数値として捉えられるかといった課題もあると認識している。

○横道委員長：

基本方針Ⅱ、Ⅲの指標の数は変わることもあるか。

○事務局：

今後の検討によっては変わることもありうる。

○鈴木（文）委員：

デザインについて、行間の広さや、パラグラフの文頭の位置等の統一を図ればなお良

い。

行政サービスのデジタル化に関する指標は抽象的で、恣意的な操作ができてしまうため、そうならないように注意が必要である。また、インプット指標は達成しやすいため、アウトプットやアウトカムを意識してほしい。

会議録の自動文字起こしやChatGPT、会計業務でのQRコードを活用など、具体的なツールの活用を数字を指標とするのが良い。

基本方針Ⅱでは、モラルサーベイや、上位評価者や若手職員の退職率、時間外勤務時間数などを指標として採用するのが良いのではないかと感じる。達成しやすい指標より、実のある指標が良いと感じる。これらは職員のワークライフバランスに関する項目なので、ある程度内部向きな指標でも良く、対外的にこれらの指標の達成に向け取り組んでいることが示せる。

事務事業評価は行政コスト計算書を職場単位で名寄せし、部署がひとつの会社であるような考え方にしていきたい。

経常収支比率には算入しておらず、実質経常収支比率に算入している国民健康保険特別会計、下水道事業特別会計の実質的な経常的支出がどれくらいあるのか。実質経常収支比率と経常収支比率とそれほど差がないのであれば指標としなくても良いのではないかと。

現在の5つの財政指標は、漏れや重複がなく、良い指標だと考える。基礎的財政収支は市債現在高比率と重複する部分があるため、指標から外した経緯がある。

指標の目標値の設定だが、民間と違い、利益を追求するわけではないので、向上目標でなく維持目標でも良いと思う。10年度の状況を予測し、目標値を設定することは難しいと思う。

○事務局：

下水道事業会計への繰出金は、償還が進んできたこともあり、令和3年度は0である。一方で国民健康保険特別会計への繰出金は令和3年度で約14.8億円ある。特別会計については、その持続性の確保を推進項目の一つとしているため、事務局としては指標として継続して掲げたいと考えている。赤字補填は臨時的な経費であり、毎年大きい数字であるため、実質経常収支比率として捉えてきた。

○原田委員：

行革大綱と総合計画の関連性として、外向きの要素が総合計画、内向きの要素は行革大綱といった整理があると思う。この考え方から見ると、基本方針Ⅲは、ほかの基本方針と比べて、並列に置くにはやや居心地の悪さを感じる。基本方針Ⅲに持続可能性や、レジリエントといった要素が含まれていると考えると、伝統的な公務主体による場所や時間が限定された公共サービスの考え方から少し離れるというイメージで捉えていく必要があるのではないかと。基本方針ⅠとⅡが伝統的な行革の項目であるとする、基本方針Ⅲは市役所をイメージせずとも行政サービスを受けられるという新しいカテゴリとして捉えるべきもので、また、それが西東京市の行革大綱の特色であると感じた。

○事務局：

行革大綱の検討の中では、まずヒト・モノ・カネに着目し、それぞれ基本方針のⅠ、Ⅱを設定した。基本方針Ⅲは現行の大綱の「効果的なサービス提供の仕組みづくり」を継承したものである。それぞれの基本方針の位置付けについては、御意見を踏まえ、検

討したい。

○原田委員：

性質の異なる基本方針の見せ方を工夫することで、大綱の特色になる。基本方針の名称も含めて検討いただきたい。

○横道委員長：

「時代の流れに即した、最適な行政サービスの提供」は何を指しているのか。

○事務局：

推進項目の3を意識したものである。子どもや若者の意見を取り入れる仕組みの構築や、事業別や職場別の行政コストを活用した事業の見直しの検討などが挙げられる。

○佐藤委員：

推進項目にぶら下がる実施項目の組み換えや内容の検討は今後議論になっていくのか。

○事務局：

実施項目について行革大綱の策定と並行して各課と調整をしていく。

○鈴木委員：

バランススコアカードの視点を基に考えると、基本方針Ⅰは財務の視点、基本方針Ⅱは学習と成長の視点、基本方針Ⅲは業務プロセスの視点となる。「顧客の視点」がなくなってしまうが、先ほどの話のとおり総合計画が外向きの要素、行政改革推進大綱が内向きの要素の改革をコンセプトとしているのであれば、顧客の視点はなくても問題ない。

○横道委員長：

本日の意見を次回までに事務局で整理していただきたい。

議題3 その他

○横道委員長：

議題3「その他」について、事務局から何かあるか。

○事務局：

次回の委員会の開催日程は、8月を予定している。

○横道委員長：

これで令和5年度第1回行政改革推進委員会を閉会する。

《閉会》